

ミズダコ

津軽海峡

Enteroctopus dofleini

地方名

まだこ（メス）、みずだこ、
しおだこ（オス）



生態

- ①寿命：オス4年5ヶ月、メス5年。オスは交配後、メスは産卵、卵保護後死亡。
- ②成熟：オス体重9.8kg以上、メス8.5kg以上。メスの最小交配個体は体重10.6kg。
- ③産卵期：青森県内での産卵は未確認。成熟状況から津軽海峡沿岸の産卵期は3～5月と推定。
- ④産卵場：岩棚に房状の卵を産み付け、ふ化するまでメスが保護をする。
- ⑤分布：日本～北アメリカまでの北部太平洋岸に広く分布。国内では北海道から日本海側は五島列島、太平洋側は相模湾まで分布。
- ⑥生態：青森県では沿岸全域の水深2～350m以浅の岩礁域や砂礫質の海底に生息する。
- ⑦成長：年齢形質は不明。標識放流等の結果から、成長の個体差が大きく、雌雄の成長差はない。2～5歳に成熟体重に達する4グループを確認。

主な漁業

タコたる流し、タコ籠、タコ箱、底建網、さし網などで漁獲され、主な漁場はごく沿岸から水深80m付近まで。太平洋、日本海では底びき網でも漁獲。

漁獲と資源の動向

津軽海峡海域での漁獲量は、昭和50年代は概ね1,000トン以下であったが、昭和61年に1,945トンに急増した。

その後、1,000～2,000トンの間で推移したが、平成22年以降横ばい傾向であり、平成25年は750トンであった。

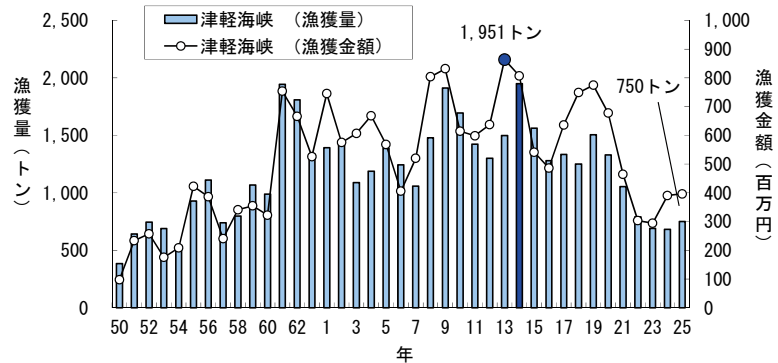


図 青森県津軽海峡海域におけるたこ類の漁獲量及び漁獲金額の推移
※統計ではミズダコ以外のたこも含む数値。津軽海峡では大半がミズダコ。

資源を上手に利用するために

- 平成2年10月に県漁連が主体となって小型個体の再放流、販売禁止、操業期間の制限が定められ、現在は体重が3kg未満再放流、禁漁期間を7月1日～10月31日としている。
- ☆上記取り組みを継続することが必要。

トピックス

- ・津軽海峡で放流されたミズダコは、津軽海峡外へほとんど移動せず、また一部の個体は津軽海峡を横断し、対岸へ移動する。青森県産業技術センター水産総合研究所と北海道立総合研究機構水産研究本部との共同研究から、津軽海峡に分布するミズダコは一つの集団であると考えられている。
- ・小型個体の保護を目的とした「改良籠試験」を平成26年から実施する予定。

